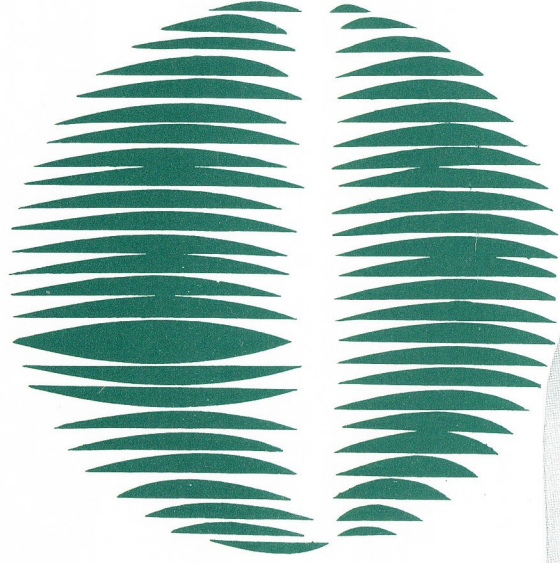


ODAWARA DANSEI 11th REGULAR CONCERT 1982. 7. 10



# 小田原男声合唱団 定期演奏会

小田原市民会館大ホール

827  
10



# プログラム

## I 沙 羅

1. 丹 沢
2. あずまやの
3. 北秋の
4. 沙 羅
5. 鴉
6. 行々子
7. 占ふと
8. ゆ め

清水重道 作詩  
信時 作曲  
福永陽一郎 編曲

## II 月光とピエロ

1. 月 夜
2. 秋のピエロ
3. ピエロ
4. ピエロの嘆き
5. 月光とピエロとピエレットの唐草模様

堀口大 学 作詩  
清水 脩 作曲

## III ロバート・シヨ一編曲シー・シャンティ一より

1. Sailing Sailing
2. Homeward Bound
3. What Shall We Do With The Drunken Sailor
4. Whup! Jamboree
5. Shenandoah
6. The Drummer And The Cook

## IV ヨハン・シュトラウス作品集

1. 美しく青きドナウ
2. 常動曲
3. 酒・女・歌

堀内敬三 訳詩  
福永陽一郎 編曲  
安田二郎 訳詩

## 曲目解説

福永陽一郎

### ● 男声合唱組曲「沙羅」

信時潔先生が作曲された「沙羅」は、もともとと独唱用の歌曲集であって、1944年の9月に、木下保先生の独唱水谷達夫先生のピアノで初演されたものである。全体は8曲の小品より成っていて、作詩は、当時の東京音楽学校の国文学の教授であった清水重道先生である。作詩作曲ともオーソドックスな古典的風格を保ったもので、とくに音楽のほうは、ヨーロッパの機能と声の基本を一步步と踏み出さな、近代的なよそおいもいっさい持たない。パッサン、ベートーヴェン、ブラームスの手法そのままを用いながら、独自の、まるで日本座敷の屏風に画かれた墨絵のような味わいを色濃く持ち、まぎれもない日本の音楽となつてゐる。西洋音楽として書かれたものも日本的な世界として、ユニークな完成美が高く評価されている。

この歌曲集は、1960年に女声合唱用の編曲版が出版され（別項参照）異例の好評を得て、あたかもこの歌曲集が最初から女声合唱曲であったかのような印象を持たれるほど一般に流布した。男声合唱用の編曲は、木下保先生の希望で1967年に制作され、木下先生の指揮で、慶応のワグネルンサイエティ男声合唱団によって初演された（今日の演奏はこの版である）さらに1973年には、混声合唱用の編曲もつくられた。以上はすべて私の編曲であるが、女声合唱には他の版もあり、木下先生は、のちに男声合唱用、混声合唱用の御自分の版もつくられた。ただし、私が私の版を使って演奏するのは容認されているようである。

### 女声合唱曲「沙羅」の出版楽譜序文

この女声合唱のための組曲「沙羅」が出版されるに当って、私の個人的な思いを出を綴りたいのだが、1944年に私は上野の音楽学校の一年生でした。信時潔先生の歌曲集「沙羅」が木下保先生によって初演されたのは、たしかその前年ではなかったかと思つて、この美しい歌曲集は当時の音楽学校の音楽科の生徒を魅了してゐた。この歌曲集を習ひ、この歌曲集をうたうことは流行という軽薄な言葉で表現してはいけないと感じられるほど、誰でもこの大事にされ愛され、必らずしなれなければならないことのようにされていきました。当時ピアノ科の学生だった私も、歌の伴奏が好きで、いつもやっていたのが、この病氣——「沙羅」愛好病にかかつてしまつた。伴奏の部分が、ひどく美しい響きを持つてゐるのも、ピアノの音の可能性をいろいろに追及出来る要素がたくさんあるのも、私をとらえ難くない魅力の一つでした。私は丁度多くのピアニストがシェンマーマンの「詩人の恋」のピアノパートを美しく弾くことに熱中するようになり、「沙羅」の伴奏をピアノ・ニステックに弾くことに熱中しました。そしていつのまにか、「沙羅」の伴奏はこう弾かれるべきだ、という確信のようなものが、私の中に出来てしまつてしまつた。他の人が弾く「沙羅」の伴奏は、みんなどこか欠に入らなかつた。——或る日、私にも私のクラシメートにも、戦君に引っぱられてゆく日に到達した。クラシメートの、今では関西にいる浦山三郎と私は、私たちの時代に到達した一番高い芸術的境地を記録しておくために、「沙羅」をレコードにすることを考へました。「沙羅」は集際に初演者の木下保先生と水谷達夫先生によってレコードになり商品化されてしまつたけれど、私などは、私たちの「現在」を、そして戦後かも知れないものを、残しておきたかつたのです。私たちが一そう勉強しました。「沙羅」の詩と言葉は私たちの血や肉と同一化したように思へました。（清水重道先生は私たちのクラスの国文学の先生でもあつたのです。）

長い年月が流れました。浦山君も私も戦争で死ぬことなく、あの少年の日の日の思い上り、も昔がたりとなりませんでした。「沙羅」をうたつた日は速く思い出のかなたに去つてしまつたようでした。

ABC女声合唱団の新しいレパートリーのために、材料をさがしていた私の頭の中に突如として「沙羅」がよみがえりました。あの少年の日に、私とあんなに密接だった歌のかすかすがすがすが、再び、まるで自分の身体から湧き出てきたようにエンビツの光から五線譜上に記されてゆきました。この編曲に私は三時間かかりました。この三時間はアツという間に過ぎたようでもあり、まるで数日過ぎたようでもありました。私自身が自分でなくも、また、まるで「沙羅」が最初から女声合唱曲であつたかのような感じでした。

言うまでもなく、「沙羅」は信時先生の代表的な佳作であり、そこに込められた美しいものは、先生の名は高くたたえられるべきですけれども、一方では私は私の「沙羅」への愛情ゆえに、この女声合唱のための編曲を、私の手になる最も美しいものとして、世の中に発表したいのです。そしてこの組曲を、私たちの少年の日の日の思い出のために、浦山三君に捧げたいと思います。（1960年9月）

### ● 男声合唱組曲「月光とピエロ」

堀口大学の第一詩集(1919年刊)の中の随一の秀作「秋のピエロ」にまず作曲されたのち、男声合唱のための組曲にするために、詩集のうち直接にピエロをテーマとするものがえられ、日本の作曲家として、合唱音楽の分野で最初に煌々たる業績を挙げた清水修（敬称略・以下同じ）の初期の傑作であり、それが発表された当初（1949年）より現在に至る間、男声合唱組曲として常に愛らぬ高い人気を保持してきた名曲である。レコーディングされた回数も多い。この曲の決定的な成功力によって、日本独特の「合唱組曲」という形式が確立されたという「秋のピエロ」は1948年度の合唱コンクールの課題曲として作曲され、次の年、当時作曲者が指揮をしていた東京男声合唱団のために、残りの曲が加えられて組曲となった。堀口大学の詩集は、現在、文庫本のような形で店頭に出しておらず、この組曲によってその詩を知り、親しんだという人が多い。

合唱コンクールの課題曲として新作された合唱曲が、長く生命を保つた例は、非常にすくない。「秋のピエロ」は、1948年度のコンクール課題曲の募集当選作であるが、これが、組曲全体の中でもとくに愛唱されているのは、むしろ例外中の例外と云つてよいくらいである。理由づけは、いくらでもできるだろうが、その必要もあるまい。事実がすべてを証明しているから。

私は、組曲「月光とピエロ」の、もつとも多い回数の指揮経験者であるが自負している。「労音」の活動がもつとも隆盛をきわめた頃、私は、日本全国のほとんどの都市でこの曲を指揮演奏した。かぞえてみたことはないが、本番ステージだけで、三百回はとくに越してゐるはずである。

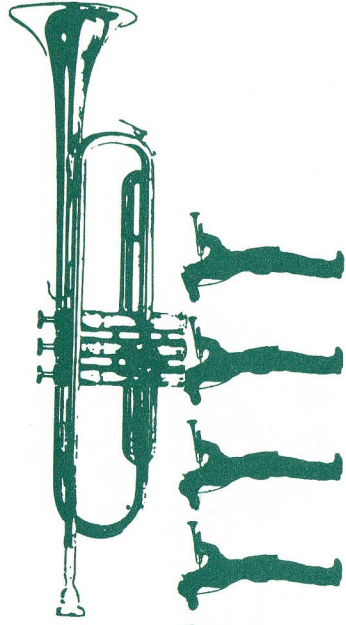
指揮者の、楽曲に対するアプローチは、刻々、変化しゆく。日を重ねるにしたがつて、改良もされるだろうし、ゆがめられもするだろう。私は、何度か、白紙にもどして、この曲の楽譜が表現しようとしてゐるものと対決した。そのたびに、毎回、新鮮な発見と感動とを、この楽譜が呼びおこすことに、むしろ驚歎した。私は、この「月光とピエロ」を指揮することに、“飽き”を感じ

輝く音。

Nikon

ニッコンソフトランペンカ

カラレッジモデル YTR-135



たことは一度もない。これだけ長い期間、多い回数に演奏で、いつも私を燃えさせたてくれる楽曲を、私は他に知らない。

## ● Sea Chanties

Chantyとは、本来、海の男の労働歌である。しかし、我が国の舟歌のような漁業関係のものとは違い、水夫の歌といった色彩が強いのである。

Chantyは、最初、船上での重労働の時に元気がつけないためのかけ声であったが、次第に歌の形をとり、やがては労働歌ばかりでなく、水夫の歌をすべてChantyと呼ぶようになった。大海原をそれこそ何ヶ月も旅する水夫達にとつて、歌は彼らの大きな娯楽であり、朝のひとときでもあったから、帆船時代にChantyが栄えたのは当然である。また、陸に上がれば上がったで彼らは酒場へ行つてChantyを歌い、それが一般に広がっていき、という形をとつた。したがって、現在ではアメリカ民謡の一つに数えられるChantyも、元をたどれば、ノルウェーからドレイツ系を含むオランダ、イギリス、フランス、スペイン等にも行きあたり、それは、Chantyがフランス語のchanter(歌う)を語源としていて、事からもわかる。Chantyには、例えば帆の捲き上げなどの重労働の時に歌われ、水夫長もしくは音頭とりの独唱にしたり、水夫が声を揃えて力を出す、という純然たる労働歌、船の捲き上げや、ろくろを使って船を棧橋に着ける綱を引つぱるといった単純な作業の歌、そして「前甲板の歌」と呼ばれる、勤務から解放された水夫達のためにギターやパンヨーや号笛等を伴奏に使って歌われる歌と、大きく分けて三種類がある。

### 1. Sailing Sailing

「さあ出帆だ、波立つ海を越えて、たとえ嵐が来ようとも負けずに、さあ行こう!!」と、何度も繰り返して歌われていた。スチーヴの幕開けにふさわしく元気のよい歌で、いかにも快晴の日の心地よい航海の気分が出ている。

### 2. Homeward Bound

アメリカで歌われている歌であるが、その発生地はドイツらしく、ヨハン・シュトラウスの「ジプシー男爵」というオペレッタの第2幕は、この歌で始まる。

### 3. Whup! Jamboree

Chantyの中には、水夫の故郷の民謡のイディオムをそっくり取り入れたものが少なくない。この前甲板の歌は、アイerlandのリートルという民俗舞曲のリズムと旋法によつたものである。

### 4. What Shall We Do with The Drunken Sailor

イギリスの海の労働歌としては最も古いもので、17世紀頃から歌われていただろうとされている。テンポが速く、コミカルで楽天的な水夫気質がよく現われている。

### 5. Shenandoah

アメリカ独立戦争直後に歌われた、インディアンの酋長ルシエナントアと白人の商人との恋物語であるが、本来はフランス系の航海者の歌だったという説もある。日本では最もよく知られたChantyであろう。

### 6. The Drummer and The Cook

イギリス民謡によく見られる早口のおもしろさがよくでている前甲板の歌で、小男の鼓手と片目の料理女のユ一モラスな歌である。

## ● ヨハン・シュトラウスの男声合唱曲

ワルツ王・ヨハン・シュトラウス2世は、長い年月にわたつて、Wiener Männergesangsverein ヴィーン男声合唱協会と親密な友好関係を結んでいた。ワルツ王が、男声合唱のワルツを書いた最初は、1867年のことで、その曲は、のちにワルツ王のトレード・マークになつて「美しく青きドナウの流れ」であった。その年の2月15日に、男声合唱協会によつて演奏、発表されたその曲は、しかし、あまり好評を得られなかったという。この曲が大成功したのは、半年後のパリでの万国博覧会で、オーケストラ版が演奏されたとき以来で、その後、急速に欧米全

国に知れわたつた。日本では戦前から女声合唱曲としてひろく愛唱され、混声合唱でも演奏されたが、オリジナルの男声合唱ではなかなか演奏されるチャンスがなかった。(二長調というオリジナルの調性が、日本の男声合唱団にとつて高音すぎるといふ事情もあった。)

題名として「美しく青きドナウ」は、詩人カール・ベックの「愛の詩」から採られたが、曲の歌詞はその詩と関係なく、初演の際はヨーゼフ・ヴェイルの書いたものが使われた。(ヨーゼフ・ヴェイルは、ワルツ「酒・女・歌」やポルカ「合唱団員の歡び」などの作詞者でもある。しかし、現在では、フランツ・フォン・ゲルネルトの作詞した“Donan so blau”で始まる新しい歌詞でうたわれるのが普通である。日本語歌詞は有名な堀内歌三訳である。

ヨハン・シュトラウスは、「美しく青きドナウ」に次いで、ヴィーン男声合唱協会のために、1968年にポルカ「(男声)合唱団員の歡び」を作曲し、1969年にワルツ「酒・女・歌」を作曲した。このワルツは、その年の2月2日に初演された。いずれも男声合唱ならではの題材である。「酒・女・歌」は、ドイツ＝オーケストラ風の「乾杯の歌」のスタイルによるかなり長い導入部を持ち、オーケストラの男声の演奏力が、しばしば省略されるが、この部分に形では欠くことができない。

ヨハン・シュトラウスのオリジナルの男声合唱曲は以上の3曲だけでなく、1870年作のワルツ「新しいヴィーン」、1880年作のフランツ風ポルカ「若者たちの徒歩旅行」、1881年作のワルツ「ミルテの花盛り」、1891年にブラーターの合唱祭のときにヴィーン男声合唱協会がうたつたワルツ「大ヴィーン」がある。「大ヴィーン」は、フランツ・ゲルネルトの作詞によるもので、「美しく青きドナウ」の新歌詞も、このときに作られたものと思われ

る。「常動曲」は、勿論、オリジナルの男声合唱曲ではない。しかし、このテレビ番組等でよく知られたヨハン・シュトラウスの名曲は、昔々、S.Pレコードの時代の数々の名曲で人気の高かつた男声8重唱団「コモディア・ハーモニウス」の得意のナンバーで、その超人的なスキヤット唱法は、男声合唱愛好家の内での語り草であった。それを再現したいともくろろんだ編曲である。いまは「常動曲」という名称で規定されているが、むかしは「無窮動」と記され、実際にヨハン・シュトラウスのこの曲は、一度、演奏が開始されると無限に続くように作られている。



◇ 音楽と仲よしになれる、新しいカタチ、新しい音。

# XO7A-32

株式会社 鈴木楽器製作所  
浜松市漁家町443 TEL(0534)-61-2325(代表) 丁430  
鈴木楽器販売株式会社  
横浜市緑区荏田町1856-8 横浜(045)911-1916



と不安で迎えています。一方でデニスにも夢中、家でも「どちらかにしたらたか?」などといわれるのですが、火曜日になるとつい小田原に来てしまうのです。

- 井筒 稔** ●昨年の秋に或る事がキッカケで入団した46才のひねた新幹です。ようやくオダダンの雰囲気にも馴れて、今では歌う事の楽しさを満喫しています。
- 小野 豊** ●歌いたい気持ちは一倍あれど、本務多忙につき只今休居中。
- 坪井孝士** ●創立以来のメンバー、外見に似ず熱血漢。
- 須原清一** ●非常にマメな男、ブルーのユニフォームで広島街を歩きメメンバーの度肝をぬいた。
- 青野幸夫** ●?年ぶりに復活、フルートもたしなむ器用な人。
- 諸星 茂**



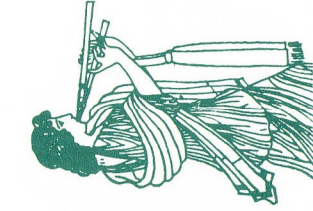
- B1** パートリーダー 小沢 一
- 小田男に入ってから十年。歌仲間との楽しい思い出がいっぱい。色々な人と色んな所で歌ったこと、話した事、聞いたこと、飲んだこと、色々な所で歌ったこと、遊んだこと等々、それから大事なことも、もしピアノノだけやっていたら平均率に調律された響きに満足してたのかも…なんて人間の声のすばらしいことか! 感謝!
- 二度とない人生だから/歌うことでこの一瞬一瞬を燃焼させたい/あなと共に歌いたい/今は亡き友の分まで歌いたい/戦争のない平和な世の実現のため願いをこめて歌いたい/生命あるかぎり…。
- 小田高時代にコーラスをはじめ今年でついに30年になる。一級下の吉田晃、大塚正夫も小田男とともに木曜会で現在活躍中。これぞ本物の歌仲間。
- 柏木秀茂** ●正直申しまして年齢がたいそう気になります、せいぜいがんばりましょう。合唱は一人ではできません。万障繰り合わせて練習に出てくる人、役員の方に感謝したいと思います。
- 二宮治二** ●職業はイシ。親父のイシをついでなつたわけではない、両親はとうになくなってたので、私自身55才のおぢんだが、親のイシであることは間違いない。イシの上にも三年ととうとう、なんと仲間に遅れずに4・5年になる。好きなならばイシの固さと関係なく長持ちするものだ。さても、文中のイシを漢字に直せない人は、こんばんやくのひもでイシしてしまえ、いしし……。
- 中島広志** ●小田原男声が増えてくれた楽しみ。それは聞くだけでなく、自分も歌った合唱の大曲などを、自ら歌えるようになってきたということ。この10年で鑑賞の時代は過ぎ、演奏の時代に入り「道楽」は「道落」にまで至ったようだ。仕事疲れを忘れ、合唱に没頭する時間を持つ。これは、家族もしぶしぶ公認したようだ。やがて愚息と一緒に歌う日が来るだろうか。
- 自分の声というものは、判らないもので、その声を聞

いて、あらためていやな思いをします。それを、人様の前で歌うのですから、聞く方も勇気(?)のいいことだと思えます。コーラスは、自分の得意な所は抑えたり、不得意な所は強調しなくてはならないなど、人間の社会生活と似ています。今夜はどういうアンサンブルになるか、気がかりです。

- 松本和夫** ●船に弱いくせして釣りに行く。楽譜に弱いくせして歌っている。でも気心知れた人達の中で歌いながら、ピシッときまきまった音の重なりを聞きつつ「やった!これぞ生きた感じが、いや歌がいい」と内心大満足。これがあるからやめられない。小田原地区合唱連盟理事長 **下村興毅**
- 小田男きつっての能書家。NHKで相模温泉のPRに懸命 **伊東清邦** ●ベースからバリトンへトトレード。甘い声の持ち主 **小田切 修**



- B2** パートリーダー **阿部年男**
- 平塚から小田原へ通ってくるのも、J. STRAUS Sの酒・女・歌を地で行くためでしょうか?とにかく男の仲間のハーマニーに魅せられています。
- 団生活六年者。拘拙発最低声。熱烈愛団。飲酒中庸而壯健。為業以医於平塚市而多忙。宜日日充実哉。
- 日下部 陽** ●時代を先取りするもの。遺伝子操作。オプティエレクトロニクス。それにウーマンパワーの時代を生きぬくために。若き血潮の男性コーラスを。来たれ。 **中山博之**
- メカナイズ、組織化の進み世の中で、疎外感に取りつかれないように、今宵も我等は歌う。心ゆくまでハーマニーを求めて。音楽こそ、神が与え給うた宝物。快いハーマニーのため仲間の増えることを願う。 **広田守邦**
- うらやましいとき「小田男が演奏会なのに、私は仕事をしている日曜日」やってみたいこと「ドイツでうたうこと。来年チャペルがあるのに仕事でいけないこと。みたい曲「ラヴェルのピアノ曲」以上出来ないことづくしの一席。おそまつです。
- 今考えたと、遠い昔小学生の時地元の放送局でコーラスをしたのがオダマジャクションにとりつかれた最初だったか。それからいくつかの仲間と歌い、たどり着いたのがこの小田男だった。
- 現在仕事が多忙にもかかわらず、二つの合唱団を兼任しつつほどの音楽好き。旅行などでもウォークマンを身につけて不思議ときまきまっている男である。
- 下沢 孝** ●小田原男声、創立以来10年余り、よくも続けて来られたナと言うのが実感。歌うもよし、飲み語るもよし、女性なきが故にそこに又別な楽しさもあるようだ。ゼイタクは言うまい。
- まじめ人間。これから花開く? **江藤凱夫**



# うた リコーダーで歌が唱える……!!?

リコーダーの専門メーカーだからこそできたアウロスの傑作をあなたに…。リコーダーにだって歌がうたえるのです。

## AULOS. トヤマ楽器製造株式会社

本社 東京都板橋区大原町41-174 ☎03-960-8301(代)  
大阪営業所 大阪市東区北久宝寺町2-50本町和光ビル802号  
〒541 ☎06-264-7191(代)

## 1981~82 オダダカンカレンダー

- 81. 10. 25 小田原市民合唱祭(市民会館)
- 12. 11 小田原「第九」演奏会(市民会館)
- 20 藤沢「第九」演奏会(市民会館)
- 26 秦野「第九」演奏会(文化会館)
- 82. 5. 16 JAMCA10周年記念演奏会  
(新宿文化センター)
- 6. 6 第31回湘南合唱祭(相模原市民会館)
- 6. 19~20 合宿(箱根仙石原)
- 6. 27 「冬にむかって」レコーディング  
(東芝EMI)
- 7. 4 平塚市中央公民館開館記念演奏会
- 7. 10 第11回定期演奏会(市民会館)
- 10. 10 小田原市民合唱祭
- 11. 20 ファミリーコンサート
- 12. 26 「メサイア」演奏会(藤沢市民会館)
- 83. 3. 6 「ハルモニーマイサ」演奏会(藤沢市民会館)

## 1981~82 演奏曲目

- 信時 潔(福永陽一郎編) 男声合唱組曲「沙羅」
- 多田 武彦 男声合唱組曲「雪明りの路」
- 清水 修 男声合唱組曲「月光とピエロ」(合同演奏)
- 三木 稔 「レクイエム」(合同演奏)
- 池辺晋一郎 混声合唱組曲「冬にむかって」(合同演奏)
- マラー (福永陽一郎編) 「さすらう若人の歌」
- サン・サーンス 「秋の歌・冬のセレナード・春の讃歌」
- ロバート・ショウ 編曲による小学唱歌
- ロバート・ショウ 編曲シーシャンティより
- ベートーヴェン 交響曲第九番「合唱」(神奈川フィル定期  
定期: 藤沢市響定期)

## 合 宿 風 景



酒 女 歌  
ナシ



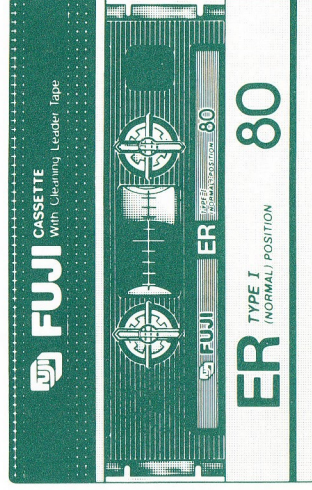
## 〈小田原男声合唱団スタッフ〉

指揮者: 福永陽一郎 副指揮者: 松本和夫 団 長: 下村興毅 副団長・技術部長: 福井靖史 副団長・財政部長: 渡辺誠之  
副団長・団員部長: 中山博之 事務局長: 井上忠彦 事業部長: 福島修 渉外: 阿部年男 情報: 足利裕之 備品: 日置達男  
監 査: 二宮治二・中島広志

## 〈第11回定期演奏会スタッフ〉

チケット・チラシ: 小野豊 プログラム: 足利裕之・鈴木幸三 演出・舞台: 日置達男 演奏技術: 福井靖史 会計: 渡辺誠之  
合宿: 中山博之・日置達男 打上げ: 藤本慎治・日置達男 舞台監督: 鈴木正昭 会場責任者: 江川卓男

【休団者】(T1) 斉藤恵司・近藤国男・鈴木正昭・杉本健二 (T2) 市野修一・北島道弘・石橋泰三・青野幸夫・木村敏明  
(B1) 伊東清邦・坂上 恵・岩崎敦吉 (B2) 高橋 茂・小田切 修・栗原忠直・桑原敏雄



new  
新登場 ER  
TYPE I (NORMAL) POSITION  
■C-46 ¥450 ■C-60 ¥550  
■C-80 ¥750 ■C-90 ¥850 ■C-120 ¥1,200

音楽の心をテープにする

FUJI

CASSETTE

清水 重道

細口 大宇

1 丹 沢

枯れ笹に陽が流れる、背に汗  
うらうらと霽さえも、冬なのに  
尾根長く檜洞こえて響く沢おと  
どの山も崩土の色だけは清くてある  
椿のむかふ町並光らせて葉野  
見やる天城も明るい卓付き  
雪の米ぬき山のくぼに煙草吸うて見るひとり

2 あづまやの

あづまやの まやのあまりに 立ちぬれ  
と 殿の戸あけと 云ひし人もが  
かつかよ  
變もなしと 云ひし人もが  
變もなしと 云ひし人もが  
五雨月を わが訪ひくれど 門さして  
君はいまさず 憎くや この君

3 北 秋 の

北秋の 疎の 小道のくま  
わが見し花に 名つけてよ 君  
いなむしろ 君によそへて 呼ばましものを  
みつみつし 白く小さき 北秋の花

4 沙 羅

林、音なく 日の暮は ゆめのごとし  
真玉つつゆ おもくして 沙羅の花ちる  
さくら 沙羅の花 ほの黄色なる

5 鴉

小田の薄ら米 ふみ破り 踏み渡る  
大おそどり、からす  
首ふり 肩をはり 黥つめたげに  
ついばむ ひようひようとして  
大おそどり からす

6 行 々 子

ふるさとの 河原の平に よしきりは鳴く 日ねもす鳴く  
昔わが遊びし時と 変ることなし  
よしまきは鳴く 日ねもす鳴く 耳いたく鳴く

7 占 ふ と

占ふと 云ふにあらねど 梳るわが黒髪  
常になうときわけがたく なにがなし 心みだるゝ  
ためらふと云ふにあらねど すき櫛をくしげに替てゝ  
わけもなり嘆息すれば あゝ まこと  
わが恋のさだめにも似て ひたすらに 心わびしも

8 ゆ め

あかつきに 見る夢の さめはてぬ かなしきや  
野のはてに 池ありて 人をらぬ 静けさや  
白々と たぶひろく ひろごれる さびしさや  
夢ごゝろ うつゝ心 たぶひろき 池ばかりなる

1 月 夜

月の光の照る辻に  
ピエロさびしく立ちにけり。  
ピエロの姿白ければ  
月の光に濡れにけり。  
あたりししみ見まわせど  
コロンビイヌの影もなし。  
あまりに事のかなしさに  
ピエロは涙ながしけり

2 秋 のピエロ

泣き笑いでわがピエロ  
秋じゃ！ 秋じゃ！ と歌うなり  
Oの形の口をして  
秋じゃ！ 秋じゃ！ と歌うなり  
月のよなる白粉の  
顔が涙を流すなり  
身すぎ世すぎの是非もなく  
おどけたれどもわがピエロ  
秋はしみじみ身に滲みて  
眞実なみだを流すなり

3 ピエロ

ピエロの白さ！ 身のつらさ！  
ピエロの顔は 眞白け！  
白くあかるく 見ゆれども  
ピエロの顔は さびしかり！  
ピエロは 月の光なり！  
白くあかるく 見ゆれども  
月の光は さびしかり！

4 ピエロの嘆き

かなしからずや身はピエロ、  
月の輝の爰無兒！  
月はみ空に身はここに、  
身すぎ世すぎの泣き笑い

5 月光とピエロとピエレットの唐草模様

月の光に照らされて ピエロ、ピエレット  
踊りけり、ピエロ、ピエレット。  
月の光に照らされて ピエロ、ピエレット  
歌いけり、ピエロ ピエレット。  
踊りけり、ピエロ ピエレット。  
歌いけり、ピエロ ピエレット。  
踊りけり、歌いけり、  
ピエロ ピエレット。 ピエロ、ピエレット。  
月の光に照らされて ピエロ ピエレット。  
ピエロ ピエレット。 月の光に照らされて

# Sea Chanties

## Sailing Sailing

Sailing, sailing over the bounding

main,

for many a stormy wind shall blow  
ere Jack comes home again.

Oh / Heave ho / my lads,

the wind blow free,

a pleasant gale is on our lee,

and soon across the ocean clear

our gallant barque shall bravely

steer.

But ere we part for freedom shore

tonight,

a song we'll sing for home and beauty

Then here's to the sailor and here's

to the soldier, too.

Hearts will be forgiven up the

waters blue.

Sailing, sailing over the bounding

main,

for many a stormy wind shall blow

ere Jack comes home again.

## Homeward Bound

Holla hoo Holla hoo

The windows stare the windward

stream

Then blow ye winds, aye o ye winds

Across the wide and rolling sea

Then blow ye winds, aye o ye winds

Our sails are full all night and day

Then blow ye winds, aye o ye winds

But home is ever far away

Then blow ye winds, aye o ye winds

I long to see a sign of land

Then blow ye winds, aye o ye winds

I long to touch my sweet-heart's

hand

Then blow ye winds, aye o ye winds

Our ship has sailed a world around

Then blow ye winds, aye o ye winds

And thanks to Lord we're homeward

bound

Then blow ye winds, aye o ye winds

Holla hoo Holla hoo

## Whup / Jamboree

Now, my lads, be of good cheer,

For the Irish land will soon draw

near,

In a few more days we'll sight Cape

Clear,

O Jenny, get your oatcake done.

Whup / Jamboree, Whup / Jamboree,

O you sometime sailor, haul upon

the line

Whup / Jamboree, Whup / Jamboree,

O Jenny, get your oatcake done.

Now Cape Clear it is in sight,

We'll be off Holyhead by tomorrow

night

And we'll shape our course for the

Rock light

O Jenny, get your oatcake done.

\* repeat

波巻く大海原を行こう

嵐なんかに負けず

そうすりやまた帰れるさ

オー / ヨイと巻け /

追い風だぞ

もっと気持ちいい風が待ってるぜ

海を渡るのはすぐだ

俺達の船は勇敢だから

今夜俺達は自由の国を求めて出航だ

故郷と恋人のために唄おう

さあ水夫に乾杯 / 水兵にも乾杯 /

俺達の心はもう海の上

波巻く大海原を行こう

嵐なんかに負けず

そうすりやまた帰れるさ

ホー ホー ホー ホー

窓に風が吹きつける

風よ吹け

逆巻く大海原を越え

風よ吹け、もつと

夜も昼も、一日中海ばかり

風よ吹け、強く

故郷は遙か彼方

風よ吹け、風よ

陸地の影でもいらいからみみたい

風よ吹け

恋人よ、お前の手に触れていたい

風よ吹け、もつと強く

俺達の船は世界をめぐる

風よ吹け、もつともつと

神様、おかげで家に帰れそうです

風よ吹け、風よ

ホー ホー ホー ホー

さあ、みんな、元気をかせ

アイルランドはもうすぐだ

二、三日内にはクリア一岬が見えそう

だぞ

ジェニー、ビスケットを焼いてもらえ、

ワーワー 馬鹿騒ぎだ

お前は時々靴路を直させろ

ワーワー お祭り騒ぎだ

ジェニー、ビスケットを焼いてもらえ、

クリア一岬が見えて来たぞ

ホーリーヘッドを明日の夜には出航だ

そしたらロック・ライトに靴路をとるぞ

さあ、ジェニー、ビスケットを焼いて

もらえ \* 繰り返し

Now my lads, we're round the Rock.  
All Hammocks lashed and the chests  
all locked

We'll haul her into the Waterloo

Dock,

O Jenny, get your oatcake done,

\* repeat

Now, my lads, we're all in dock.

We'll be off to Dan Lowrie's on the

spot,

And now we'll have a good

roundabout

O Jenny, get your oatcake done,

\* repeat

気をつけろ、暗礁だぞ  
ハンモックがゆれる、椅子を固定しろ

船をウォータールーのドックまで引っ

張ってゆくぞ

さあ、ジェニー、ビスケットを焼いて

もらえ \* 繰り返し

やっとドック入り完了だ

ダン・ローリースへ向けて、すぐ出航

だ

ずいぶん速回りしちまったぜ

さあ、ジェニー、ビスケットを焼いて

もらえ \* 繰り返し

## What Shall We Do with The Drunken Sailor

What shall we do with a drunken

sailor

early in the morning?

Hoolay and up she rises /

Early in the morning /

(かけ声)

Put him in a long boat'till he's

sober /

Pull out the plug and wet him all

over /

## Shenandoah

Oh, Shenandoah, I long to hear you,

away, you rolling river, I'm bound

cross the wide Missouri.

Oh, Shenandoah, I love your

daughter. I'll take her'cross the

rolling water

Oh, Shenandoah, I'm bound to leave

you. I'll not deceive you.

## The Drummer and The Cook

Oh, there was a little drummer and

he loved a one-eyed cook

And he loved her though she had a

cook-eyed look, with her one eye

in the pot, and the'tother up the

chimney, with a bow, follow the

dandy, bow.

Said the drummer to the cookie,

"Ain't the weather fine today?"

Said the cookie to the drummer,

"Is that all you got to say?"

Said the drummer to the cookie,

"Will I buy the wedding ring?"

Said the cookie "Now you're

talking, that would be the very

thing /"

When they went to church to say

"I will" the drummer got a mark,

For her one eye glifed the parson

and the'tother killed the clerk /

よっぱらいの水夫をどうしようか?  
こんなに朝早く

ヤツの酔がさめるまで長靴に投げ込ん  
でかけ /

栓を抜き出して、彼の全身をビショぬ  
れにしてやれ /

お、シェナンドアよ君の声が聞きた  
いよ。はるかな 流れる川よ。私は  
広いミズーリを越えて速くへ船出さ  
せられてしまった。

君の娘を愛しているよ。彼女を流れる  
川水を越えて連れてゆこう。

君を離れて船出させられた。私は君を  
あざむかないよ。  
(一番のくりかえし)

片眼の料理女を恋した一人の少年鼓手  
がいた。

やぶにらみの目のひとつ目で、湯沸か  
しの中を見ているのか、煙突を見上  
げているのか、好い男のあとを目で  
追っているのか、どうも同じように  
見えなければ、彼は彼女を愛して  
いた。

今日はお天気が良いかい?と彼は彼に  
尋ねた

それしか云うことないのかい?と彼女  
は答えた。

「結婚指輪を買おうか?」

「やっつと まともなことを云ったね!」

「アイ・ウィル」を云うために(結婚の  
宣誓をするために)教会へ行つたと  
き、打ちのめされた。

何故なら、彼女のひとつ目が彼をばう  
つとさせると同時に、牧師さんを夢  
中させていたから。